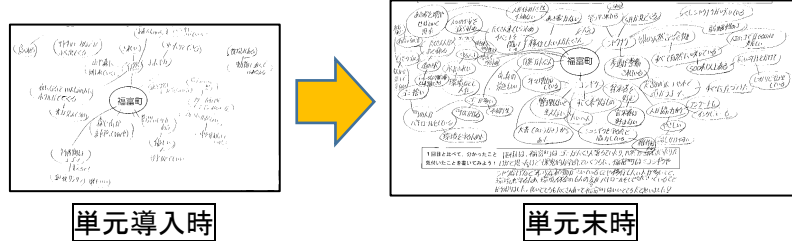




福富流 地域を題材にした「探究的な学習」の進め方

①まずは実態把握！

小学校第1学年から中学校第3学年まで同じ形のイメージマップを使用し、児童・生徒が地域のことをどのように感じているのかを実態把握しました。個々が**地域のよさだ**と感じていること、**地域に対して思っていることを把握**することで、異学年集団の実態に合ったテーマを設定することができました。



単元末時に同じイメージマップを書くことで、児童・生徒は、**自らの成長を客観的に感じることが**できます。

②「ワクワク」が大切



テーマを設定した後に、学習活動の流れをまとめたストーリーを可視化した「単元ストーリー」を作成することで、教職員間の連携ができ、同じ視点で児童・生徒の資質・能力の育成にあたることができます。

次に、単元導入時の学習指導案を作成します。ここで大切なのは、**児童・生徒が「やってみたい、探究したい！」**と思うような単元との出会い

です。<※例えば小学校第3・4学年学級園を見に行く→大豆が食べられている！→足跡がある、動物が犯人だ！→…福富の森は豊かじゃないの？>

課題設定のポイント

- ・発見・疑問を大切に
- ・地域へ Let's go!
- ・自分は何ができる？

ワクワクするような単元との出会いが、探究を進める原動力になります！

③ループブリックの開発

目指す資質・能力を明確化するため、9年間を系統的に考えたループブリックを開発しました。下図は令和4年度に作成したものです。赤字は令和3年度のものを

変更したところです。児童・生徒の実態や単元の特徴などに応じて、**定期的に妥当かどうかを検討していく必要があります。**

協働性	レベル	主体性
<ul style="list-style-type: none"> ● 責任: 役割をもち、最後までやり抜こうとしている。 ● 土気感: 他者の意見を聞き、自分の意見と違った場合でも、そのよさを認め、共感しようとしている。 ● 土気感: 他者の意見と自分の意見を比較し、自分の意見を客観的に捉えながら課題解決に取り組もうとしている。 ● 土気感: 自他のよさを生かしながら、協力して課題解決に取り組もうとしている。 ● 土気感: 協議をすることによって、合意形成を図ろうとしている。 	1, 2, 3, 4, 5	<ul style="list-style-type: none"> ● 主体的思考: 課題について、自分の意見をもち、前向きに取り組もうとしている。 ● 主体的思考: 目的をもって学習に取り組もうとしている。 ● 主体的思考: 課題解決に向けて、見通しをもち、自分で目標を立てながら学習に取り組もうとしている。 ● 主体的思考: 課題解決に向けて、自らさまざまな視点で考えようとしている。 ● 主体的思考: 設定した仮説に関する情報を自ら進んで収集し、結論を導き出そうとしている。

④資質・能力の提示



ループブリックについてよく言われることは、「子どもたちに具体的なループブリックを提示すれば、子どもたち自身が資質・能力の育成を意識して活動するのではないか？」ということです。ゴール地点が明確になれば、確かに進みやすいと思います。しかし、ゴールにたどり着いてしまえば、それ以上の成長を目指して活動を進めることが難しくなることも考えられます。**進んでいる子どもの成長を止めないためにも、本校では詳細なループブリックは教師側のみがもち、子どもたちにはこのような項目だけを提示する**という形で進めています。

⑤学びの可視化



他のグループの学びの過程が分かるように、「探究ロード」という掲示の場を設置しました。常に同じ展示をするのではなく、**学習の進捗状況に合わせて変化していく**掲示です。また、掲示するだけでなく、**児童・生徒が他者に「見てほしい」と思ったもの等も設置できるように**することで、主体的に学ぶ意欲の向上につながり、**児童・生徒、教員も活用できる場となっています。**小学校第3・4学年は、写真や地図で学習の様子を知らせるだけでなく、川グループが川で捕獲した生き物を展示しています。



⑥Project team「FIT」

小・中の教職員が同じベクトルで探究的な学習を進められるよう、FIT (Fukutomi Inquiry learning Team) を組織しました。**研究推進リーダーを中心に、管理職、研究主任、生活科担当教員などで構成したチームが主体となり、研究を進めました。**ループブリックの開発や資質・能力の提示の仕方、児童・生徒の主体性・協働性を引き出す効果的なファシリテートの在り方についての研修を計画するなど、学校全体で探究的な学習を推進するために様々な取組を行いました。

研修情報の共有や進捗状況の交流を目的として作成した研究推進通信もその取組のうちの一つです。ぜひ福富小・中学校HPでご覧ください。

広島県「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」指定校
兼 令和4・令和5年度東広島市教育推進指定校

東広島市立福富小・中学校



探究のあゆみ

本校が研究を推進してきた「探究的な学習」は、地域での様々な人たちとの出会いや体験を大切にしながら進めてきました。このリーフレットでは、地域とともに歩んだ3年間を紹介します。

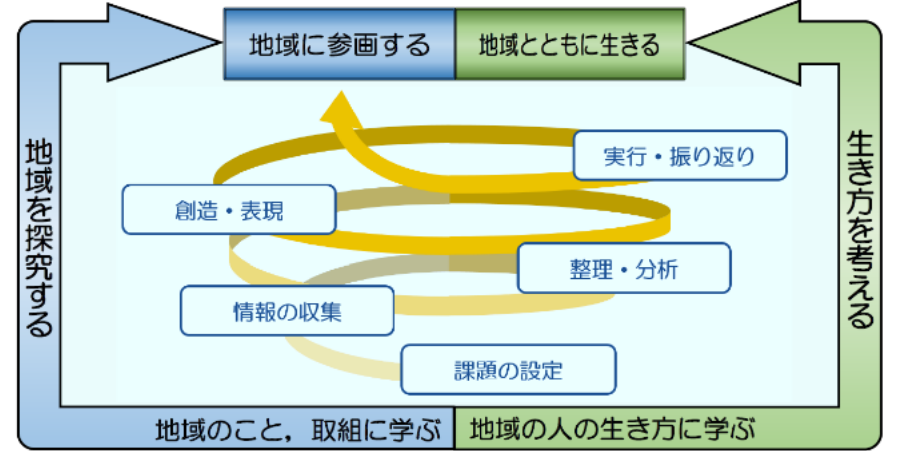
研究構想図



学校教育目標
夢と志をもち 今を大切に生きる児童・生徒の育成
児童・生徒に身に付けさせたい資質・能力
「主体性」「協働性」「自己の生き方を考える力」

研究主題
福富の地域に誇りをもち、自分の生き方を考える児童・生徒の育成
～ 地域における探究活動と協働的な学びを通して ～
研究仮説
生活科や総合的な学習において、郷土福富を題材とした探究活動を進め、協働的な学びを展開することによって、福富の地域に誇りをもち、自己の生き方について主体的に考えることができるであろう。

探究的な学習(生活科・総合的な学習の時間)



カリキュラムマネジメント

- 育成すべき資質・能力の明確化、ループブリックの開発
- 福富型協働的な学びの展開
- 学校運営協議会を活かした学習支援体制の構築
- ファシリテートの工夫
- 地域題材の教材化と単元構成の工夫
- 学びの過程の可視化

異学年集団での学び 小規模・小中一貫教育校	個別最適な学び コミュニティ・スクール(学校運営協議会)	アントレプレナーシップを育む学び
--------------------------	---------------------------------	------------------